

三井寺、近江神宮ハイキング

31期 高山雅史

令和4年4月11日春のハイキングを三井寺、近江神宮散策で実施しました。

今年は桜の開花が1週間ほど早く30%ほどで葉桜。三井寺駅へ集合して9:06 スタートしました。

駅前から琵琶湖疎水に沿って西へ行き左折して三井寺の観音堂前への長い石段を登り西国14番札所に着きました。高台から琵琶湖の展望を楽しみました。左の道から墓地を通り抜けて金堂に出ました。ここは秀吉の正室北の政所により再建されたもので大きな檜皮葺きの屋根を持ち、威容を誇っています。この中の本尊の弥勒菩薩や平安時代から鎌倉時代にかけての諸仏像にお参りして仁王門から外に出ました。

この門は湖南市の石部の常楽寺に元あったもので、後に秀吉によって伏見に移され、慶長6年(1601)に家康によって現在地に建てられたものです。古色蒼然として表門にふさわしい風格を持っています。

仁王門を出て左へ道なりに歩きます。滋賀県警察学校の威勢の良いランニングの声に送られて坂道を歩き、大津市歴史資料館の裏道に入りました。雑木林の山道の入口には東海自然歩道の標識があり自然歩道の一部になっていることがわかります。ハイキングにふさわしい雑木林の山道のアップダウンのあと、石を敷いた階段を下ります。新羅善神堂へ左折の標識通り、石段を登るとすっきりとした新羅善神堂(国宝)に着きました。平安時代、源頼義の三男義光がこの社前で元服し新羅三郎義光と称したことから三井寺は源氏一門及び足利氏の尊崇を集めるようになりました。この室町時代初期建築はきれいに整備されていました。

47号線を出てさらに北へ向かい、皇子が丘公園の信号を北へ登り公園に着きました。

上部の駐車場で再び琵琶湖の遠望を楽しんだ後、トイレのある芝生広場の花の盛りが残る桜の近くで昼食としました。

ゆっくり休息をとり47号線を北へ近江神宮に向かって歩くと途中近江大津宮遺跡があります。天智天皇(626~671)が1300年以上昔奈良の飛鳥から遷都した大津宮跡といわれている所です。芝生の跡だけですが巨大な柱跡と門跡、建物を囲んだ柵列、倉庫群が発掘され、今は埋め戻されています。

47号線から近江神宮参道に入ります。楼門をくぐり外拝殿、内拝殿を登り本殿に入りました。外拝殿の日時計では季節調整リンク付きのためか実際の時刻とぴったりです。

これより47号線に戻り京阪近江神宮駅からJR草津線に乗り継いで帰途につきました。

快晴であまり風もなく穏やかで気持ちの良いウォーキングでした。

